

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<p>「思考のすべ」「メタ認知」を教科等横断的に学習活動に位置付け、学習指導要領の三つの資質・能力を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知識及び技能をネットワーク化させながら、確実に習得させる。 ・問題解決活動及び目標実現活動を通して、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・学習の過程をメタ認知することで、自らの学習状況を把握し、調整しながらよりよく目標を達成する態度と方法を身に付け、学びに向かう力・人間性等を涵養する。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・比較したり分類したり関連付けたりする場面(思考のすべ)を日常の授業の中に設定し、細切れではなくネットワーク化させて習得させることで、活用できる生きた知識・技能として身に付けさせる。 ・問題解決や目標実現活動を設定し、身に付けた知識・技能を活用しながら、目当てをもって取り組み、達成することを通して、思考力・判断力・表現力を伸ばさせる。 ・問題解決や目標実現活動の事前・遂行段階・事後にメタ認知させることで、自らの学習状況を把握し、調整しながらよりよく目標を達成する経験を積み、主体的に学ぶ力を涵養する。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点		
	「自分の考えを適切に伝える」という課題を解決する過程において、方略を活用し、言葉を手がかりに考えを形成し、相手に伝えることができるようにする。	児童が豊かに音楽と関わり、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けていく授業過程を大切にする。学習のつながり・他者とのつながりを組み入れた授業を展開し、やがて社会や生活や人生に生かされる音楽科の授業を目指す。	地域・自然・人とのかわりなど、実社会・実生活の中から課題を見出し、体験的・主体的・協働的に探究する学習を通して、問題解決の力と学び合いのスキルを身に付けさせる。また、探究的な学習の過程で、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用できる環境を整える。	教科書を中心に指導計画を立て、授業の中で議論する時間を意識的に取り入れ、自己の生活と関連付けながら、自尊感情を育み自他の生命を尊重する態度を養うとともに、人権意識や規範意識、公共心を育てる。		
	社会科	図工科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点		
	問題解決の過程で、社会的な事象を比較・分類・関連付けながら社会的な見方や考え方を構築する。また、社会的な事象に対する自分の概念を形成し、自分なりの評価や判断をすることで、今後の自分と社会との関わり方を考える。	造形的な視点を比較・分類・関連付けながら自分の感覚や行為を通して理解し、主体的に表現を工夫していけるようにする。また、他者の表現や考えを認め尊重し、生活や社会の中で豊かに形や色などに関わっていけるようにする。			学級活動、委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動や誕生会会食などの異学年交流など自主的・実践的な集団活動を通して、人間関係をよりよく形成する力を身に付けるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度や社会への参画意識を養う。	英語推進教員を中心にALTとの連携型・担任単独型両方の指導の充実を図ることを通して、児童のコミュニケーション能力の向上を図り、国際社会を積極的に生きていく力や外国語で交流を図ろうとする態度を育てる。
	算数科	家庭科				
	問題解決の過程で、既習事項と比較したり、多様な考えを分類したり、数学的な表現の方法を関連付けて考えたりすることで、課題の発見、筋道の通った解決、自己の考えの洗練につなげる。	衣食住などの自分の生活における課題を生活と関連付けながらつかみ、比較実験や調べる活動、実習などを通して追究し、日常生活で活用できる能力・態度を養う。				
	理科	体育科				
	問題解決の過程において、理解への見通しをもたせ、観察や実験を通して、自然事象を比較・分類・関連付けながら考えをすすめる、自分の持っている自然概念を再構築させていく。	自分や友達の動きを比較したり関連付けたりしながらよりよい動きや表したい感じを判断し表現することを通して技能を身に付けたり、運動に親しんだりする。				
生活科	外国語科(5・6年生)					
問題解決の過程で、様々な情報や体験を比較・分類・関連付けながら、学び方やものの考え方を身に付け、主体的・創造的・協働的に問題を解決する能力を育成し、さらに学んだことから自己の生き方を考えることができるようにする。	体験的な活動を通して、言語や文化への理解を深めていく。また、日本語と外国語を比較しながら違いに気付かせ、基本的な表現に親しませ、児童が積極的にコミュニケーションを図ることのできる力を身に付けていく。					

見通しをもたせる導入	振り返りの設定	ICT機器の活用
本校の授業改善に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の途中の場面で、学習の進め方を振り返る場面を設定し、学習の進め方があっているかを確かめたり、修正したりする。 ・単元の終わりには、課題解決ができたか、学習の進め方はあっていたか等を振り返り、次の学びにつなげていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スプレッドシートなどを使い、児童の考えを交流させることで、自分の考えを確かなものにしたたり、新たな考えに気付くように授業を展開する。 ・ノートを使う場面とクロムブックを使う場面を教師が的確に判断し、授業を展開する。また、児童の学習状況に応じて、適宜クロムブックを活用し、児童が主体的に学ぶことができるように指導をしていく。